

ストループ効果について

21011285 成澤 啓登

21011215 鈴木 翔太

21011265 土井 涼太

・ストループ効果とは

文字意味と文字色のように同時に目にする二つの情報が干渉しあう現象の事

例えば色名を答える質問の場合、赤色で書かれた「赤」よりも、青色で書かれた「赤」のほうが、答えるまで時間がかかるというもの。

・目的

ストループ効果は本当に効果があるのか確かめる

ストループ効果の種類によってどのくらい影響に違いがあるか確かめる

・方法

大学生50人に7パターンのテストを10枚ずつ（計70枚）してもらいデータを取りSPSSで分析しました

	時間（ストループあり）	時間（ストループなしとの差）	ミスの回数
アルファベット	13.4 秒	3.7 秒	0.46 回
数字	17.8 秒	10.2 秒	0.62 回
ストループ効果	9.3 秒	2.8 秒	0.48 回
逆ストループ効果	8.9 秒	2.4 秒	0.5 回

・結果

ストループありとなしでは、ストループ効果の方が時間がかかることがわかった。

ストループ効果ありの平均時間を分散分析をしてみた結果

被験者内効果の検定で有意確率がほとんど 0.000 だったので4つのパターンは違いがないことがわかった。下位検定をしてみてストループ効果ありとなし、どちらの場合でもストループ効果と逆ストループ効果は0.09という数値で有意に近かった。ミスの回数に限ってはあまり違いはなかった。

考察

・人は日常生活の中で先入観をもって物事をとらえてしまうと、その物の本来の意味を間違えて認識してしまうことがある。

・例えば、標識などで青いものに止まれと書いてあっても 青=進め という先入観から進んでしまう人もいる。今回の実験でもミスする人や時間がかかる人がいたので、ストループ効果は日常の中でも発生しやすいのではないかと。

